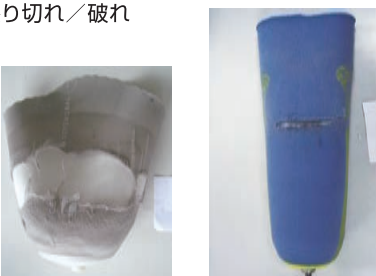
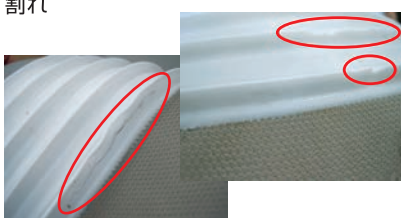


オズールライナートラブルシューティング

状態		考えられる原因	対処法
ライナーの内部(シリコン部分)	1. 亀裂	 ライナーを使用されないとときに長時間裏返しにしたまま放置している。 ●脛骨骨端や腓骨頭端に圧がかかっている(下腿義足)。 ●大腿骨端に圧がかかっている(大腿義足)。 ソケットがきつく、ライナーがソケットの底部に接触しておらず浮いた状態になっている。 ソケットが緩く、ライナーが遊脚期で伸ばされている(ピン式の場合)。 爪や時計、指輪、ライナーのピンなど鋭利なものがシリコンに当たった。 アンブレラの形状が合っていない。 ライナーのサイズが小さく、マトリックスに伸長する余地を与えてしまっている。	ライナーを裏返しにしたまま放置しない。 ※裏返しにしていなくてこのような亀裂が続いた場合、まずソケットの適合を再評価する。ユーザーが中活動以上であれば、シナジーのような高い耐久性を持つライナーを検討する。 ●断端の形状やソケットのフィッティングを確認する。 ●骨突起部を除圧する。 ライナーの末端部がソケット底部まで接触しているか、ソケットの底部とライナーの間に隙間や空気が入っていないか確認する。 ●適切なボリュウム・形状のソケットにする。 ●断端袋を使用する。 ●爪や時計、指輪に気をつける。 ●ライナーが長い場合、適切な長さにカットしてロールオンしやすくする。 ●ソケット内側と外側に丸みをつけ、滑らかにする。 ●ソケットの適合を確認する。 ●ソケット内のアンブレラの形状を一致させる。 適切なライナーサイズを選択する。
	2. シリコンの凸凹／変色／一部がうすくなった	 ① 極端なコニカルな形でディスタルカップを使っていない。 ② 骨突起部が顕著なのに分圧パッドや盛り修正などの処置がなされていない。 ライナーをロールオンではなく、引っばって力をかけて装着した。 製造工程にシリコンの中に空気が閉じ込められている(製造不良)。	① ディスタルカップを使用する。 ② 骨突起部を除圧する。 ライナーをロールオンして装着する。 交換品をお渡しさせていただきます。
	亀裂	 トリミングラインに高い圧がかかっている。 膝屈曲の際にソケット後方のトリミングライン後方から高い圧がかかった(下腿義足)。 ライナーがハードソケットと坐骨結節の間で挟まれている(大腿義足)。	●フィッティングがきつすぎないか、体重の増加、断端袋の装着枚数が適切かを確認する。 ●ソケットの縁を滑らかにする。 ●断端のボリュウムが増加していないか、ソケットの適合性を確認する。 ●トリムラインの位置と仕上がりを確認する。 ●スポーツをされている場合、膝の可動範囲とトリムラインが適切か確認する。 ライナーが挟まれないよう遠位でカットする。
	擦り切れ／破れ	 ライナーがソケットの縁に繰り返してこすりつけられている。 後方壁の高さが適切でなくライナーに圧がかかっている。 ハードソケットのトリミングラインが荒い。 ソケットがきつく、ソケット内壁の表面との間に過度な摩擦がかかっている。(カバーにも玉ができていた場合は特にその可能性あり) ライナーのトリミングラインの処理が不十分である。	ソケットの縁を滑らかにする。 ソケット後方のトリミングラインが適切かどうか確認する。 トリミングラインを修正し、ライナーにシースを最低1枚かぶせる。 適切なボリュウム・形状のソケットにして、シースを最低1枚被せ、ソケット表面との摩擦を少なくする。 ライナーのトリミングラインから最低1cm幅でシリコン接着剤をライナーの外カバー上に塗布する。
	割れ	 潤滑剤をつけ忘れている、またはつける量が少ない。 ソケットがゆるく、ピストン運動が生じている。適切なボリュウム・形状のソケットにする。 ライナーのサイズが合っていない。 ソケットがきつく、ライナーがソケットの底部に接触しておらず浮いた状態になっている。	ソケットとライナーシール部の両方に潤滑剤を十分に塗布する。 ライナーとソケットのフィッティングを確認する。適切なボリュウム・形状のソケットにする。 適切なライナーサイズを選択する。 ライナーの末端部がソケット底部まで接触しているか、ソケットの遠位部とライナーの間に隙間や空気が入っていないか確認する。